

平成31(令和元)年度

事業報告書

社会福祉法人 柏寿会

福光園ケアハウス老楽園

〒021-0902

一関市萩荘字大袋 306番地1

電 話 3 2 - 2 5 1 0

F A X 3 2 - 2 5 1 1

目次.....	1
1. 沿革.....	2
2. 事業の目的.....	2
3. 事業の内容.....	2
4. 当年度の目標の反省.....	4
5. 入居者の状況.....	7
6. 行事の実施報告.....	10
7. ボランティア等受け入れ状況.....	11
8. 研修実施状況.....	11
9. 主な事業活動収入等.....	11

1. 沿革

ケアハウス老楽園は、平成17年3月12日、一関市萩荘大袋に開所しました。

利用定員20名、職員5名で事業を開始し、同施設内には、デイサービスセンター老楽園が併設されています。平成22年4月1日には、本部の特別養護老人ホーム福光園が大袋に移転新築され、二階部分にケアハウス老楽園特定施設入居者生活介護（利用定員20名）が増床されました。介護付きケアハウスの開所により、ケアハウスの入居者にとっても、住み続けられるという安心感が強まりました。

2. 事業の目的

身の回りのことができる程度の自立した生活ができるものの、調理等に負担を感じつつある高齢者の方を対象として、食住の提供および入浴の準備、相談、余暇活動支援、緊急時の対応といったサービスを提供することによって、その人なりの自立した生活をしていただけるよう援助することを目的とする。

3. 事業内容

①食事の提供

1日3食、基本的には食堂にて食べていただく形で提供しています。欠食をする場合は、原則として前日17時まで（朝食は15時まで）に届けを出していただいています。

給食委員会を2か月に1回行い、入居者の意見をもとに、職員、栄養士で食事について意見や感想等話し合っています。不定期でごはんについて語る会を行い、栄養士と入居者、職員で食事についてお話ししています。

また、嗜好調査（食形態や主食の量、個人の嗜好等の確認）を6カ月に1回実施し、代替食にも対応しています。体調の変化等に合わせて、一時的に主食をおかゆにするなどといった対応も個別に行っています。

行事食や季節に合わせたメニューなどは特に喜ばれています。

②入浴の準備

ケアハウスには個室浴槽が2つあり、午前中から夜までご本人の希望に合わせた予約制で入浴していただいています。施設側で浴室の掃除、湯沸しを行い、

一人ずつ入っていただきます。お湯は一人ひとり替えるため、気兼ねなく入浴していただけます。一人で入浴することが不安な方は、ヘルパー見守り・入浴、あるいはデイサービスでの入浴を利用しています。

③生活や健康に関する相談及び助言

入居者やご家族の生活相談や健康相談を受け、必要に応じてケアマネや他のサービス事業者等と連携して対応しています。

入居者に対しては、日頃から月に1回の体重測定、週に1回の健康チェック(血圧測定等)の他、冬期間朝の検温や換気の声かけ、必要に応じて通院日程の調整やその方にあった薬の管理方法の確認等を行い、各自が適切に健康管理できるよう支援しています。

また、年に1回予防医学協会による健康診断の機会を設け、入居者に喚起しています。

年4回感染症対策委員会を行い、その内容や健康管理に関する情報を月に1回の常会等でお知らせし、役立てていただいています。

ご家族に対しては、毎月おたよりの送付を行っており、行事の様子や翌月の予定等を掲載した新聞「老楽園だより」や連絡事項、ご本人の様子の変化等をお知らせしています。

ケアハウスは自立型の施設のため、ADLの低下や認知症の進行等により次の施設への移行が必要になることがあります。しかし、介護付きの施設へ移行するということは入居者にとってもご家族にとっても、精神的・身体的・経済的にも負担が大きいことと思われれます。

特にケアハウスはその性質上、他の入居施設に比べて家族が遠方におられる方も多いため、普段からご家族にご本人の状況を定期的に伝えることが必要と考えます。入居者・ご家族に安心して暮らしていただくため、また、ご家族にご本人の体調や状態の変化への心の準備をしていただくためです。

施設の移行が必要になった際は、ケアマネと連携し、ご本人、ご家族の気持ちの傾聴、当園で作成した「介護付きの施設が気になった時の手引き」を含め必要な情報提供等を行うことで、移行における精神的負担へ配慮していきたいと考えています。

④余暇活動の支援

季節に合わせた行事や外食、クラブ活動(レクリエーション、歌の会、学習クラブ)等、入居者同士の交流や余暇時間を充実させるための支援をする。

毎月のクラブ活動(大正琴の歌の会、レクリエーション)では、ボランティアで外部講師の方に来ていただき活動しています。

その他、季節に合わせた行事（お正月、節分、ひな祭り、お花見、七夕祭り、紅葉ドライブ等々）や、買い物行事、外食行事、毎週問題を配布する学習クラブなど入居者同士の交流や余暇時間を充実させるための支援を行っています。

⑤疾病や災害等緊急時の対応

体調の急変時は、かかりつけ医等医療機関やご家族と連絡を取りながら対応しています。夜間は常時看護師と連絡が取れる体制をとっています。

また、災害による被害を軽減するため防災計画を作成し、消防署との連携の下、定期的に避難訓練を実施しています。

容態急変時の通院の援助、医療機関やご家族への連絡調整を行う。また、災害等緊急時における対応を行う。

⑥その他のサービス

○通院の送迎

タクシーを利用した場合の金銭的負担を考慮し、平日の9:00~18:00はケアハウスで送迎を行っています。希望時間・予約時間になるべく合わせて送り、帰りはケアハウスに電話で連絡してもらい、その都度迎えに行っています。通院の送迎が優先にはなりますが、希望に応じて、市役所や郵便局、自宅、買い物等への送迎にも対応しています。

○介護保険サービスの仲介

初回の介護認定の申請に関する相談や、ケアマネへつなげるお手伝い、その他生活の様子を見ながら、相談・助言等行っています。

4. 当年度の目標の反省

① 入居者一人一人がその人なりの自立した生活を目指し、継続できるよう支援する

令和元年度は入退居が少なかった分、一人ひとりのADLの変化や認知症の進行などの変化が感じられることも多くありました。

しかし、なかなかサービスや通院につなげられないこともありました。本人は「自分はできている」「できなくなったら終わりだ」という思いがあったり、本人の生活のしかたとサービスを結びつけることが難しい（洗濯がうまくできていないが、本人は思い立ったときすぐ洗濯したいのでヘルパーで対応しきれない等）、認知症が進みつつあり新しいサービスを開始するにも混乱して理解ができなかったりといったこともありました。

介護付きの施設であれば、日常の流れの中でさりげなくお手伝いでき、本人も「手伝ってもらっている」という意識をあまり感じなくても暮らしていくことができる部分もあると思います。

しかし、ケアハウスでは「サービスを増やす」ことになるため、本人ができなくなってきた部分を指摘されているように受け止めてしまいかねないこと、その分お金がかかると本人も気にしたりといったことなどから、必要なサービス利用につなげることが難しいことがあります。

ケアハウスという枠組みの中でいかにその人が自立した生活を続けられるよう支えていけるか、家族やケアマネ、本人にも協力してもらい、試行錯誤した1年でした。

目標の1つとしてもあげていましたが、特に軽度認知症への対応に苦慮しました。入居者の物取られ妄想などで、職員も精神的につらい状況になることもありました。しかし、本人が受診した精神科の先生の話や、研修でお話をうかがった先生のお話、本などの情報、職員会議内での情報共有等により、認知症の症状をどう受け止め、どう対応していけばいいかを考える貴重な機会となりました。

早期発見早期受診につなげるため、認知症のチェックリストを作成予定でしたが、研修を通して必ずしも必要ではないと感じました。「早期受診」は服薬や手術で治療可能な種類の認知症かどうかの判断のためのもので、アルツハイマー病などの認知症については、服薬にそこまでの大きな効果があるとは言えないようです。

むしろ、通院や服薬につなげようとしても、本人が受け入れられない状態の場合は無理にすすめてもうまくいかず、かえって本人の周囲への不信感などの周辺症状につながり、それによって周囲も精神的につらい状況になってしまうようです。

お話をうかがった先生からも「薬は介護ができる程度に症状を抑えるためのもので、認知症をなくせるものではない」「半年くらいで症状は別の症状に変わっていくのでその間と思って割り切ること」とアドバイスをいただき、「薬を飲めば改善するのではないか？受診が必要なのではないか？」と「早期発見早期受診」にとらわれすぎていたことに気づきました。

本人も周囲もつらい時期がありますが、物忘れなどが進んでも本人が穏やかに暮らせることを考えることが周囲の負担軽減にもつながり、好循環につながると感じました。正しく理解することが、介護負担の軽減につながるということを再確認しました。

また、認知症は「知的機能の低下による生活障害」というお話もありました。「病気」として無理に通院・治療を勧めるよりも、本人にとってどう暮らして

いくことがいいのか、本人・ご家族と一緒に考え、見守っていくことを大切にしていきたいと思います。

また、2月からは流行中の新型コロナウイルス対策として、家族面会の制限、職員の出勤前検温、ヘルパー・業者等園内に入る方の検温、手洗い、手指消毒、記録を行っております。入居者の外出・通院についても最低限にするため、可能な限り職員が代行しています。引き続き、対策していくとともに、入居者の不安やストレスへの対応も並行して行っていきたいと考えています。

② 退居先へ移るその日まで不安なく生活できるよう支援する。そのためにご家族へのより伝わりやすい情報提供方法を検討する。

ケアハウスは自立型の施設のため、ADLの低下や認知症の進行等により次の施設への移行が必要になることがあり、その際の入居者やご家族のとまどいや不安を軽減できればと取り組んできました。

普段から毎月のおたよりで状態を伝えることで、詳しく聞きたいと電話をいただいたり、様子を知らせてもらえるので安心といった声も聞かれており、本人の変化を知っていただくうえでも、一定の効果はあると感じます。

ただ「退居」に向かっている中での本人やご家族の精神的負担を考えると、ケアハウスとして、もう少しできることはないか、どういう情報提供などがあればいいかと考えさせられる部分もありました。

また、日中は仕事をしているご家族も多いため、緊急ではないが報告や確認しておきたいことについて、LINE等利用していきたいと考えています。

③ 入居者が地域とのつながりを生かして暮らせるよう支援するとともに、ケアハウスが地域の資源として認識していただけるよう努める

引き続き、移動販売、クリーニング屋さん、移動図書館、クラブ活動など地域の店舗や地域の方に定期的に来ていただきました。

平成31年度は、少しずつでも地域のためにできることを考え、老楽園周辺をゴミ拾いをしながらお散歩しています。各自張り切って帽子や手袋、袋を持って集まってくれました。今後もこうした取り組みを行っていかれたらと思います。

5. 入居者の状況

(1) 月別利用状況及び充足率

月	月初利用者数	入居	退居	月末利用者数	利用率
4	20	0	0	20	97.8
5	20	0	0	20	98.7
6	20	0	0	20	94.2
7	20	0	0	20	96.5
8	20	1	1	20	96
9	20	0	0	20	100
10	20	0	0	20	100
11	20	0	0	20	97
12	20	0	0	20	96.5
1	20	0	0	20	100
2	20	0	0	20	97.4
3	20	0	0	20	98.6
計	240	1	1	240	97.7

※利用率については、入院・外泊分も不在とみなして集計

【入居前居所】 自宅 1名

【退居理由】 自宅へ 1名

(2) 入居前住所別利用者数

〔令和2年3月31日現在〕

入居前住所	人数（名）	入居前住所	人数（名）
一関市	14	気仙沼市（宮城県）	1
平泉町	1	仙台市（宮城県）	1
奥州市	1	東京都	1
釜石市	1	計	20

もともと市内在住の方が多くですが、一関に子どもや親戚がいたり、近くに希望する施設がなかったりと市外から入居される方もいらっしゃいます。

ケアハウスに住所を移している方は、入居者20名中8名です。

(3) 年齢別・男女別利用者数

〔令和2年3月31日現在〕

年齢(代)	男性〔名〕	女性〔名〕	計〔名〕
60歳	1	1	2
70歳	1	0	1
80歳	2	9	11
90歳	0	6	6
計	3	16	20

※入居者の平均年齢

〔男性〕 75.2 歳 〔女性〕 86.9 歳

〔全体〕 84.6 歳

(4) 年齢別介護度の状況

〔令和2年3月31日現在〕

	~69歳 〔名〕	70~ 74歳 〔名〕	75~ 79歳 〔名〕	80~ 84歳 〔名〕	85~ 89歳 〔名〕	90歳~ 〔名〕	計 〔名〕
自立	0	0	0	3	0	0	3
要支援1	0	0	0	0	0	1	1
要支援2	1	0	0	0	2	3	6
要介護1	1	1	0	2	3	2	9
要介護2	0	0	0	0	1	0	1
計	2	1	0	5	6	6	20

平均介護度 0.91

入居される理由として、60~70歳代は身体的・体調的に不安がある方が多く、90歳前後以上の方は一人暮らしが難しくなってきたという方が多いため、それがそのまま年齢・介護度に反映されており、二極化の傾向があります。

(5) 介護サービスの利用状況

〔令和2年3月31日現在〕

介護度	人 数	サービス 利用あり	利用内訳（重複あり）		
			デイ	ヘルパー	福祉用具
自立	3	0	0	0	0
要支援1	1	1	1	0	0
2	6	6	4	6	4
要介護1	8	8	4	8	6
2	1	1	1	0	0
計	19	16	10	14	10

要支援・要介護認定を受けている方全員が、何らかの介護保険サービスを利用しています。

ヘルパーの利用内容は、居室の清掃・入浴の付き添い・介助、通院の付き添いが主です。福祉用具は歩行器のレンタルが最も多く、その他杖や手すり（ベッド、トイレ、居室内）のレンタルを利用されています。デイ・ヘルパーの利用回数も増加傾向です。

(6) 通院の送迎回数

ケアハウス職員が病院に送迎した回数（往復で1カウントする）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
名	34	21	19	37	26	29	37	30	27	23	22	26

年間合計 331回

平日の9:00～18:00 送迎対応行っています。

内科・整形・眼科・耳鼻科・歯科…と各科に通院している方も少なくなく、診察の他、注射や電気かけなどに通っている方もいます。

この他、通院以外の送迎にも対応しています。

6. 行事の実施報告

年 月 日	行事内容
平成31年4月12、15日	お花見ドライブ
19日	入居者親睦会総会
23日	観桜会
5月10日	母の日
24日	春のミニ運動会(ゲーム大会)
31日	お買い物イベント(衣類販売)
6月5日	避難訓練
7日～	七夕飾り作り
14日	父の日
7月3日	七夕笹飾り
13日	老楽園夏祭り
18日	外食「伊吹」
27日	福光園夏祭り
8月2日	一関夏祭り花火見学(ミニドライブ)
19日	入居者健康診断
9月6日	園外ゴミ拾い&散歩
10日～	敬老会作品展示
15日	敬老会
22日	とうふ祭り
10月21、31日	ドライブ&昼食「若神子亭」
11月5日～	干支の押絵づくり
8日	いものこ汁作り
20	お買い物イベント(衣類販売)
26、28日	外食「あさひ鮨」
12月2日	ツリー飾り付け
17日	忘年会
24日	クリスマスランチ
25日	みずき飾り、もちつき
1月22日	新年会(ひつつみ鍋作り)
24、30日	外食「千利庵」
31日	新春ゲーム大会
2月3日	節分豆まき

6日	ひな人形かざり
20日	お茶会
3月3日	ひな祭り会
9日	ひな人形片付け
16日	おやつ会

その他、各種クラブ活動、買い物（月2回）、歌の会（大正琴）、常会、居室整理、園長の日、移動販売、特別（個別）ドライブ等

7. ボランティア等受け入れ状況

定期ボランティア

歌の会（大正琴） OM 様 （月1回）

レクリエーション SY 様 （月2回）

8. 研修実施状況

6/16 認知症専門医から学ぶ“周辺症状”に振り回されないケア（仙台）

9/22 元気ネットワーク研修会「個別ケアの実践」ハンドケア（福光園）

9. 主な事業活動収入等

のべ利用者数： 7133 人（利用率97.7%）

老人福祉事業収入： 36,339,247 円